

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人 温寿会		
事業所名	グループホーム庄の原苑（なごみ）		
所在地	大分県大分市大字荏隈字庄の原1798番地		
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果市町村受理日	令和7年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・立地が市街地に近く、大分高速インターもある事からご家族が立ち寄りやすい。ご家族がいつでも気軽に来て頂ける施設を目指している。
- ・法人運営のクリニックとの連携を図りながら、健康管理を充実させている。
- ・温寿会運営の各事業所との有機的連携を図り、重度者対応や介護ノウハウの共有化がし易い。安心してご利用して頂ける施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者のリーダーシップの基、様々な場面で職員の特技やアイデアが活かされた事業所運営が行われている。
- ・利用者の思いや家族の要望を、日常の暮らしや外部サービスに繋げるなど、柔軟な支援が行われている。
- ・母体法人との協力体制が、感染症対策や集団での外出支援に活かされている。

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	1/9			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑独自の理念の下、住み慣れた地域で豊かで穏やかな生活が出来る様、支援に取り組んでいる。職員間で日々介護の問題点を検討しあって、現場に反映している。	事業所理念の「豊かで穏やかな微笑みの介護」は、職員の特技やアイデアが活かされた季節行事やレクリエーション、穏やかに過ごす日常の暮らしに反映されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年、コロナ禍で地域行事の中止や感染防止の理由から参加が出来ていない。状況により感染対策を行い、短時間で個別に地域の病院や買い物に行く機会を設けている。	今年度、地域住民を交えた事業所での夏祭りを企画し、開催準備を行っている。感染対策を図りながら、地域交流や行事への参加について検討されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの実践など、グループホームでの経験を広報誌などを通して地域の方々にお知らせしている。コロナ禍にてボランティアや児童交流の受け入れは休止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて苑内誌「歳時記」を紹介し、日々の取り組みを写真付きで紹介している。二か月に一回運営推進会議を行えている。	運営推進会議は、定期的に対面で開かれている。事業所の状況報告を中心に、利用者の見守りや安全対策についての意見交換も行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・現場の実情など問題点を、長寿福祉課へ伺いアドバイスを頂いたり、電話連絡・FAX等で確認している。	大分市長寿福祉課職員の運営推進会議への出席も多く、利用者や事業所の情報や実情を伝えている。疑問や質問は、電話でアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて身体拘束防止委員会を設け、各委員へ報告し、頂いた意見などを毎月の苑内会議で発表して、身体拘束防止についての見直しや理解に努めている。	介護度1・2の利用者が多く、見守り重視での支援に努めている。危険予知を目的とした必要時に赤外線センサーを活用することもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修で年1回以上行っており、不参加者には紙面による伝達報告を実施している。業務の中で疑問に思う事があれば、職員間で声を掛け合い、会議などでもフィードバックしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修を活用し、不参加職員に向けての報告も会議などで行っている。また現場での支援を通して、尊厳を意識した取り組みを促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用いて家族様が理解・納得できるように説明を行っている。又、新たな契約を結ばないといけない時は、口頭や文書で随時説明できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や状態報告の電話を行う際、質問やご意見を頂いている。簡易なものは即時現場に反映し、内容によっては会議にて検討し、ケアプランに反映するなど出来る限りの対応をしている。	年1回の家族会が開かれている。面会や連絡時に、意見や要望を聞く機会を作っている。それらの意見や要望は、利用者支援や外部の介護サービス導入などに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、支援や業務などについて職員の意見をもらっている。必要時はすぐに運営に反映できるように取り組んでおり、柔軟に対応できる体制を整えている。	毎月、議題を提案しての職員会議が開かれている。全体会議とユニット会議を行い、業務や利用者支援についての話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に報いるよう必要な評価を行い、給与決定・研修派遣などに配慮している。苑内会議でも業務改善に向けた話し合いを行い、開かれた環境づくりを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修参加を促している。外部研修への参加は滞っているが、苑内会議でも学びたい事を職員に事前聞き取りし、伝達研修の場としている。現場でも職員間で支援の見直しや技術共有を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他部署との交流が主になるが、電話確認や現場訪問を行い、質の向上やストレス緩和への取り組みを進めている。今後は他施設との研修・交流会・懇談会など企画できればと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階や日々生活の中で、本人様や家族様からより多くの情報を頂ける様に取り組んでいる。本人様が不安を感じた時だけでなく、いつでもどこでも気軽に話す事が出来るような雰囲気づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までの経緯などゆっくりお話を伺い、状況を把握しながら苑としてできる事をお伝えしている。更に先を見据えて必要な事や、相談出来る場所として機能するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族様が望んでいる生活が実現できるような環境づくりや生活における提案を行い、プランニングにて実現できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活者として、日々協働しながら過ごしている事を意識できるようにしている。積極的なコミュニケーションを図って、共に暮らす人として馴染みの関係性を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との面会や電話連絡の際に、日々の様子や体調を伝えている。又、隔月で苑内誌「歳時記」を発行し、苑で取り組んでいるご本人の様子などを見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来れるように、苑全体が制限を一部緩和して居室内でも会えるようになっている。	家族や知人との居室での面会が行われている。法人クリニックの医師と感染症の現状に合わせた面会などについて相談しながら、家族や知人との交流支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の特徴を把握し、人間関係構築や孤立しない環境づくりに努めている。利用者様同士の信頼関係が結べるようにレクリエーションや手伝い等をお願いし、共に過ごす時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、家族様が訪問されたり、家族様からの相談も受けており、関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを図りながら、本人様の思いや気持ちを汲み取れる様に務めている。それを形にして支援に反映できるように、ケアプランに組み入れている。	事業所利用開始時に、介護計画作成担当者がアセスメントを聴取している。日々の会話から思いを聞き取る事や、改めて家族から情報を得る事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント時に詳しく聞き取りを行い、過去の生活歴や環境を考えての支援を行っている。また、日々の暮らしの中から見えてくる思いも反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録用紙に日々の様子を記入し、細かく申し送りを行っている。また、ユニット会議で個別処遇についての話し合いを行い、今後の支援に繋げられるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度(必要に応じて3ヶ月以内も)のカンファレンスを行っている。ユニット会議にて職員で意見を出し合い、課題やプランについて検討し、それを元に家族様とのカンファレンスを行って、プランに反映している。	利用者の思いや家族の希望などを組み入れた介護計画作成に努めている。ユニット会議の中で、経過や新たな課題が話し合われ、項目ごとに現状の確認も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録と送りノートに都度記入し、日々の様子や気付いたことを細かく整理している。情報は職員間で共有し、変化に対応できる様に見直しや支援に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として出来る事をしっかり熟し、更に求められるケースに対しては他職種連携の活用を含め、柔軟な発想と対応でサービスの多様化に取り組む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長と連携を図りながら地域行事に参加したり、グループホームでの行事に参加してもらいルート作りを温めている。状況を見極め、以前行っていた地域の交通誘導などにも準備を進めつつ前向きに取り組みたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の庄の原クリニックの井上修二医師と医療連携を結び、24時間365日連携が図れるようにしている。希望あれば同クリニックが主治医になれる体制あり。元々のかかりつけ医への往診や受診も行えている。	希望するかかりつけ医となっており、家族対応でのかかりつけ医受診や法人内のクリニックの訪問診療による健康管理や医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週(2週間毎)で訪問診療あり、その際に体調変化や状態の経過を医師・看護師に伝えている。また、体調に応じてこまめに看護師や医師に相談し、適切な判断が行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、早期に退院できるように細目に入院先病院のSWや看護師と連絡を取り、退院に向けての調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について事前に場を設け、終末期を迎える前後に改めて説明を重ねたうえで、結論を頂いている。事業所として、胃ろう以外は受入れを行っており、主治医と連携を図りながら、終末期ケアに取り組んでいる。	事業所利用開始時に事業所方針を伝えている。病状の進行や介護の重度化に対して、その都度話し合いを行い、事業所での看取りや入院・住み替えも含めた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、その手順に従っての実践ができている。主治医とも医療連携を結んでおり、急変時の対応も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度の防災訓練(避難訓練・通報訓練)を実施し、利用者様参加にて具体的な状況体験を養っている。苑全体でも、消防隊員に来て頂き消火器やホースを使った消火訓練を行っている。	火災想定での防災訓練を行い、年1度の母体法人との合同訓練も行われている。前回の目標達成計画として各居室のテレビの耐震対策に取り組んでいる。発電機の設置も予定されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自己決定を尊重しての対応を行い、入浴・排泄や居室訪室時などは最大限プライバシーが保護できるように、職員間で声かけしあって配慮した対応を図っている。	着替えや入浴など、利用者の希望や選択を大切にしている。個々の利用者の癖や行動を否定することなく、利用者同士で不快な思いをすることのない環境づくりにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランは本人様の言葉を大切にして、少しでも希望に沿えるような対応を行っている。また、日頃からの表情や発言などの表現をキャッチし、表出できない部分を汲み取れる支援を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の1日の流れを軸としつつも、利用者様一人一人のペースに合わせた柔軟な対応を行っている。レクリエーションも集団と個別を適宜切替て、実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら洋服を選べる方は楽しんで頂き、選べない方はクローズドクエスチョンで促している。化粧をしている方も必要に応じて支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が一緒になって配膳や盛付けなど準備を行い、食事までの流れを作っている。エプロンも必要に応じて活用し、不快なく摂食出来る工夫も行っている。	お粥や副菜は母体法人で作られ、事業所厨房で配膳されている。食が進むように、個別に佃煮やふりかけを準備したり、快適に食事を楽しめる環境の配慮も行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、増減の変化に気を付けている。口腔環境によっては一口大や刻み食を提供して、状況に応じた促しを行っている。馴染みの箸や器で、安心して食べて頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が個別に適切な口腔ケアの支援を行っている。虫歯や義歯の調整等は、協力歯科医に依頼をして、往診してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンを把握しながら、トイレにて排泄ができるように支援している。訴えない方は時間を決めて誘導し、不快な様に努めている。紙オムツ使用はゼロで、布パンツが使える方には継続して頂いている。	トイレでの排泄を基本とした支援が行われている。血尿での下着の汚染をきっかけに布から紙パンツへの移行を勧めたり、夜間帯トイレに行く事が不眠に繋がる利用者には、おむつで安眠優先に繋げるなど、排泄が、不安や負担に繋がらない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションなど身体を動かす機会を取り入れ、排便の出やすい体調作りを行っている。便秘気味の方にはトイレに長めに座ってもらい、腹圧を掛けたり便意を促している。極力便秘薬を使わない方向で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前の入浴予定はあるものの、本人様の希望に応じて日程調整している。汚染や希望あれば、追加入浴も実施している。皮膚疾患に応じて、塗布薬や入浴剤・洗剤も調整している。	入浴を好まない利用者には、声掛けの回数を増やしたり、日程調整をすることにより、気持ち良く入浴する習慣が出来ている。洗身や洗髪も利用者自身で行い、身体機能の維持に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の様子に合わせて、一時着床やソファ一席での休息など取り入れている。日中は活動の場として促しを行い、太陽光を浴びる時間も取り入れて、夜間ゆっくり眠りにつける様に対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎の処方箋ファイルを作っている。服薬準備も職員がWチェックを行い、飲み込み確認迄を行っている。服薬に伴う様子や変化については記録を行い、都度主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々出来る事を把握しながら、生活歴に合わせた手伝いや新たな取り組みを促している。得意分野に役割分担を行う事で、満足度を上げる効果も見られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会が減ったが、個別に可能な範囲で買い物なども検討している。状況に応じて自宅への一時帰宅や、ご家族と一緒に外部受診に行き頂くなど、出来る限りの取り組みを行っている。	感染対策に努めながら、花見や新しく出来た道の駅に出掛け、おやつ用にお土産を購入したり、大分駅に行きイベント用に飾られていた置物を鑑賞するなどの集団での外出支援が行われている。外出には母体のディサービスの車と運転手の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭の管理は行っていないが、必要に応じて苑側の自動販売機で入金をしてもらったり、感覚を忘れない様に促している。お金を持っていないと不安な利用者様には、危険の無い範囲で現金を持つ機会を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、家族様に電話を掛けたり、掛かってきた電話にて受け答えする機会も設けている。ご家族様からご本人宛のハガキやお手紙など頂き、交流の機会を増やしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるカレンダーや雑誌を活用したり、苑での行事をまとめた広報誌を利用者様が見られるようにしている。季節感を感じられるように各ユニットに花を飾ったり、イベント毎の飾り付けを彩として取り入れている。	共有空間の食卓は、個々の利用者が気持ちよく過ごせるよう、テーブルや座席配置の工夫が行われている。またテレビを2台設置して観賞しやすくする等の工夫が図られている。帰宅願望のある利用者が安心して過ごせるよう、掲示ボードには「今日は宿泊」の記載もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様が話が出来るように席の工夫を行ったり、3人掛けソファを活用している。一人になりたい時は居室に誘導し、落ち着ける空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みのある家具・布団・写真等を持ち込み、落ち着ける環境を再現している。居室前には表札を掲げて、安心に繋がる工夫も行っている。	居室管理は、利用者が主体となっており、一人ひとりの自立と安全を考慮したベッド柵の選択や、夜間帯の共有トイレの開閉音緩和の工夫など、居室で安全に穏やかに過ごせる支援や配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室には手摺を設置して、自力で安全に生活できるように促している。個別に歩行器や張り紙も活用し、何処にいるか分かりやすいように配慮している。動線には不要なものをおかない様に環境整備にも努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人 温寿会		
事業所名	グループホーム庄の原苑（やすらぎ）		
所在地	大分県大分市大字荏隈字庄の原1798番地		
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果市町村受理日	令和7年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ 立地が市街地に近く、大分高速インターもある事からご家族が立ち寄りやすい。ご家族がいつでも気軽に来て頂ける施設を目指している。(コロナウイルス対策の為、一部制限あり)
- ・ 法人運営のクリニックとの連携を図りながら、健康管理を充実させている。
- ・ 温寿会運営の各事業所との有機的連携を図り、重度者対応や介護ノウハウの共有化がし易い。安心してご利用して頂ける施設を目指している。

【グループホーム庄の原苑 なごみユニット】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑独自の理念を作り、地域の方との交流や豊かで穏やかな介護を目指している。(コロナ禍以降は一部制限あり)基本的な事として明るい挨拶を行い、気持ちを整えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑で行う夏祭りには地域の方に呼びかけ、交流していたが、現在はコロナ禍で行えていない。(今年、行う予定だったが苑内でコロナが流行した為、中止した。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの実践などグループホームでの経験を広報誌などを通して地域の方々にお知らせしている。小中学校の職場体験やボランティアの受け入れも行っているが、今年はコロナ禍の為受け入れはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で「苑内誌 歳時記」にて日々の取組の様子を写真を載せ紹介している。運営推進会議にて出た意見や要望は、全体会議にて検討を行い、日々の支援に活かせるようにしている。尚、コロナ禍の為書面での開催としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・現場の実情など困っていることなどを、長寿福祉課へ行きアドバイスをいただいたり、電話にて分からない事を聞くなどしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて身体拘束防止委員会を設け、参加委員より意見を頂戴している。そこで出た意見などを毎月の会議で発表し、身体拘束防止についての理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内での研修で毎年最低1回は行っており、参加した職員がユニット会議にて参加できなかった職員に報告している。業務の中でも、言葉遣いや接し方等気になることがあれば職員同士で声を掛け合うようにしている。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修にはなかなか行けていないが、苑内で開催した研修に参加している。参加できなかった職員に向けての報告も会議内で行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用いて家族様が納得されるまで説明を行っている。又、新たな契約を結ばないといけない時は、口頭や文書で随時説明できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会総会にて、皆様からの意見や要望を出して頂いたり、面会や状態報告の電話をする時等質問や意見をいただいている。会議にて検討し、ケアプランに反映するなど出来る限りの対応をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の際、職員から意見や提案をだしてもらい、全員で話し合い実行している。又、言いづらい雰囲気を作らないよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に報いるよう必要な評価を行い、給与決定、研修派遣など配慮している。管理者が判断できない案件は代表者への相談を行っている。会議での業務改善に向けた話し合いも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での月1回の研修参加を促している。外部研修へはなかなか行けていないが、月1回の会議の際、学びたい事を職員に前もって聞き取りをし、調べたうえで伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他部署との交流が主になるが、他施設に電話にて現状を伺ったりしている。コロナが落ち着いたら、他施設との研修・交流会・懇談会など企画できればと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階で、本人様や家族様からより多くの情報を頂ける様取り組んでいる。日々本人様や家族様から聞き取りを行い、本人様が不安を感じた時は気軽に話す事が出来るような雰囲気づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までの経緯などゆっくりお話を聞き、状況を把握しながら、苑としてできる事をお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族様が望んでいる生活が実現できるような環境づくりや生活における提案を行い、プランニングにて実現できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活者として、日々協働しながら生活が送れるようにしている。積極的なコミュニケーションを図って、共に暮らす人として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様面会時や電話連絡にて、日々の様子や体調を伝えている。又、隔月で歳時記を発行し、苑で取り組んでいる様子などを載せて見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を制限する事はあるが馴染みの人が面会に来れるような環境を整えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の特徴を職員が把握して、人間関係作りや孤立しない関係性の構築に努めている。利用者様同士の信頼関係が結べるようにレクリエーションや手伝いを行ってもらってる。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、家族様が訪問されたり、家族様からの相談も受けており、関係性を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを図りながら、本人様の思いや気持ちを汲み取っている。それを支援に反映できるようにケアプランに入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント時に詳しく聞き取りを行い、過去の生活歴や環境を考えた支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録用紙に細かく日々の様子の記入を行って、申し送りを行っている。又、ユニット会議時の個別の処遇についての話を細かく行っていき、今後の支援に繋げられるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度(必要に応じて、3ヶ月以内でも)のカンファレンスを行っている。ユニット会議時に職員で意見を出して、検討課題やプランについての話を行って、それを元に家族様とのカンファレンスを行って、プランの作成を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用いて、日々の様子の記録を細かく行っている。気づいた事は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所ができることを設定せずに柔軟な発想と対応でサービスの多様化に努めている。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長と連携を図りながら、地域行事に参加したり、グループホームでの行事に参加してもらっている。以前行っていた地域の交通誘導などにも積極的に参加したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の庄の原クリニックの井上修二医師と医療連携を結び、24時間365日連携が図れるようにしている。入所時に本人様、家族様の希望を伺い、同クリニックが主治医になれる体制をとっている。元々のかかりつけ医に通い続けたり、往診にきていただいたりもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間おきに訪問診療あり、その際に2週間ごとのデータをもとに医師、看護師に伝えていく。それ以外でも変化があればこまめに看護師や医師に相談し、適切な判断が行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、早期に退院できるようにこまめに入院先の病院と連絡を取り、退院に向けての調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期についての話を行っており、実際に終末期を迎える際にもう一度家族様と医師を交えながら話し合いをし、十分説明したうえで決めて頂いている。事業所として、胃ろう以外は受け入れを行っており、主治医と連携を図りながら、終末期ケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、その手順に従っての実践ができている。主治医とも医療連携を結んでおり、特変時にも対応してくれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度の防災訓練(避難訓練・通報訓練)を実施して、職員に防災意識を養わせると共に利用者様にも参加して頂き方が一に備えている。苑全体で取り組むものとして、消防隊員に来て頂き消火器やホースを使った消火訓練も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自己決定を尊重しての対応を行い、排泄や居室訪室時は最大限プライバシーが保護できるように配慮した対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランには、本人様の言葉を大切にしているプランニングを行っており、少しでも本人様の希望に沿えるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、利用者様一人一人のペースに合わせた対応を行っている。レクリエーションも集団ではなく、個別で行えるものを考えながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選べる方は選んでもらい、選べない方は職員と一緒に選べるようにしている。化粧をしている方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が進まない楽しめてない利用者様の為に、ご家族様と相談して好みのおかずなどを購入し、提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎食チェックを行っている。食を楽しんでもらえるように口腔環境(抜歯直後等)が整わない人以外は普通食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が一人一人の能力に応じて、口腔ケアを行っている。虫歯や義歯の調整等は、協力医の歯科医に依頼をして、往診してもらっている。		

事業者名:グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを把握しながら、トイレにて排泄ができるように支援している。訴えない方は、時間を決めての誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かしたり、体操やレクリエーションに参加したりして、排便の出やすい環境を作っている。トイレの際も長めに座ってもらったり、腹圧を掛けたりして、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の多い日に入浴が集中しているが、ご本人の希望を尊重し、入浴日を変更してる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の様子をみながら、休息とってもらったりしている。利用者様の状態に合わせての対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとの処方箋のファイルを作っている。又、各ユニットに個々の飲んでる薬の一覧と個数を掲示している。服薬時は、職員が飲み込むまでの確認を行っている。薬服用の変化については、記録を行い、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることを把握しながら、生活に中のできる手伝いをお願いしている。コロナ禍の為、外出はできていないが、以前は買い物など行っていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長らく外出行事を行えていなかったが、最近、近場にできた道の駅へ行った。このような外出の機会をもっと増やしていきたい。		

事業者名:グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭の管理は行っていないが、買い物の際等は、お金を出してもらったりを回数は少ないが行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	回数は少ないが、家族様に電話を掛けたり、掛かってきた電話に出て受け答えをしている。必要時手紙のやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようなカレンダーを作成したり、苑での行事をまとめた「苑内誌 歳時記」を利用者様が見れるようにしている。日々の声掛けでも季節を感じられる会話を行なったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様が話ができるように席の工夫を行ったりしている。一人になりたい時は、居室に誘導して、一人の時間が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使っていた、家具や布団、写真等を持ち込んで、以前生活していた部屋の環境に近いようにしている。又、各部屋に表札を掲げて、自分の部屋だとわかる工夫も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室には手摺を設置して、できる限り自分の力で生活できるようにして、安全面でも配慮している。		